

「土器川・金倉川・大束川 多機関連携型タイムライン(洪水) 【令和8年度版】」の更新について

令和8年6月5日

中讃地域 防災・減災・縮災ネットワーク・プロジェクト
国土交通省 香川河川国道事務所

- タイムラインとは、災害の発生を前提に、防災関係機関が連携して災害時に発生する状況を予め想定し共有した上で、「いつ」、「誰が」、「何をするか」に着目して、防災行動とその実施主体を時系列で整理した計画。
- 多機関連携型タイムラインは、住民の命を守る、さらに経済被害を最小化することを目的に、防災に係わる組織(行政、ライフライン事業者、交通事業者などの民間企業等)が連携し、災害に対するそれぞれの役割や対応行動を定めた「防災行動計画」。

＜タイムライン策定の効果、利点＞

①早めの対応による減災効果

- 想定外を避けるための危機的状況を見越した事前の対応を予め定め、対応の遅れによる被害拡大を回避
- 各機関の本来業務と災害時の優先業務を連携機関で共有

②役割の明確化による発災時の調整の最少化

- 各機関の役割を一覧として可視化することで、役割分担が明確
- 発災時の調整の労力が軽減され、混乱を回避(最小化)

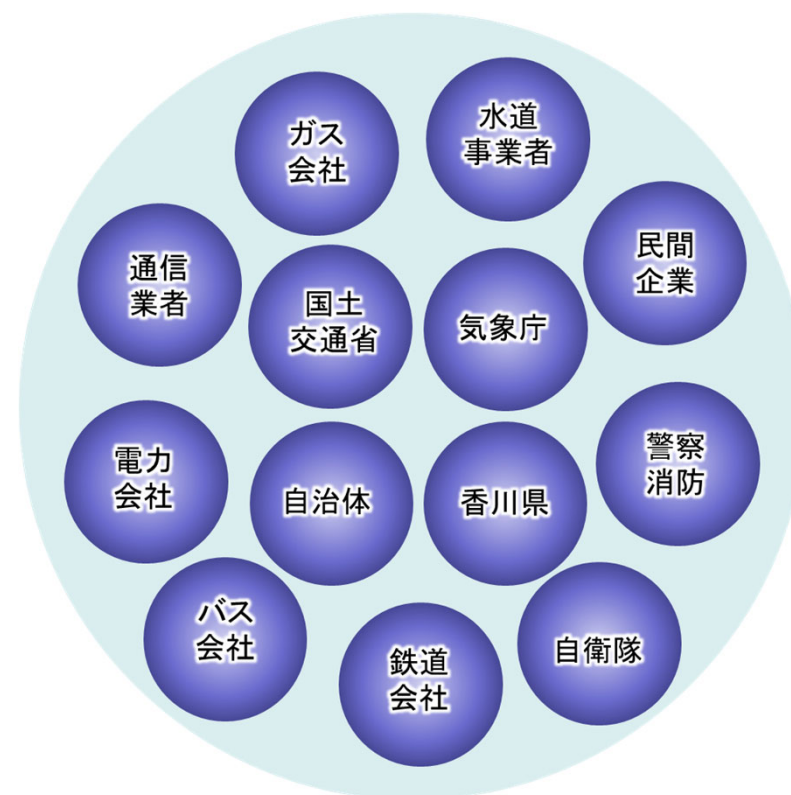
③意思決定支援ツール

- 時系列的に「やるべきこと」を定め、応急対応の意思決定の支援に活用

④防災行動のチェックリスト

- タイムラインを防災行動のチェックリストとして活用することで、災害対応の「漏れ・抜け落ち」を防止

⑤災害対応(防災行動)訓練の実効性向上



多機関連携イメージ

「新しい防災気象情報」の令和8年出水期からの運用

- 「防災気象情報に関する検討会」の最終とりまとめ（令和6年6月）を踏まえた**新しい防災気象情報の運用**を令和8年出水期から開始する予定。
- 新しい防災気象情報では、住民の避難行動に対応した**5段階の警戒レベルに整合**させ、災害発生の危険度の高まりに応じて各情報を発表。
- この方針のもとで、**情報名称の変更**、警戒レベル4相当となる**危険警戒報の新設**、**洪水関係の情報変更**、**気象防災速報の新設**など、現行の大雨警戒・注意報などの気象庁が発表する防災気象情報が大きく変わる。

現在の主な防災気象情報と警戒レベルとの関係

- **警戒レベル**は、住民が災害時にとるべき避難行動が直感的にわかるよう、**避難情報等を5段階に整理**したもの。（例：警戒レベル4＝避難指示、警戒レベル3＝高齢者等避難）
- **防災気象情報は、避難情報の発令や住民の自主避難の参考となる「警戒レベル相当情報」という位置づけ**ですが、警戒レベルとの関係が分かりづらいという課題がある。

防災気象情報と警戒レベルとの関係が分かりづらいという課題があり、「防災気象情報に関する検討会」の最終とりまとめ（令和6年6月）に沿って防災気象情報を改善。

「新しい防災気象情報」を令和8年出水期から運用開始予定

- 防災気象情報（河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮）を5段階の警戒レベルにあわせて発表します。
- 対象災害ごとの情報として整理するとともに、**レベル4相当の情報として危険警戒報を新設**します。
- **情報名称そのものにレベルの数字を付けて発表**します。（例：レベル4大雨危険警戒報等）

警戒レベル				現在の防災気象情報（警戒レベル相当情報）					
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報 （避難情報等）	警戒レベル相当情報	防災気象情報				
					洪水等に関する情報			土砂災害	高潮害
					指定河川 洪水予報 （河川毎）	洪水害 （市町村毎）	大雨浸水害 （市町村毎）		
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保	5相当	氾濫発生情報	大雨特別警報 （浸水害）	大雨特別警報 （土砂災害）	高潮特別警報	
<警戒レベル4までに必ず避難！>									
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4相当	氾濫危険情報		土砂災害警戒情報	高潮特別警報 高潮警報	
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難※	高齢者等避難	3相当	氾濫警戒情報	洪水警報	大雨警報 （土砂災害）	警報に切り替える 可能性が高い 高潮注意報	
2	気象状況悪化	自らの避難行動を 確認する	洪水、大雨、 高潮注意報	2相当	氾濫注意情報	洪水注意報	大雨注意報	高潮注意報	
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを 高める	早期注意情報	1相当					

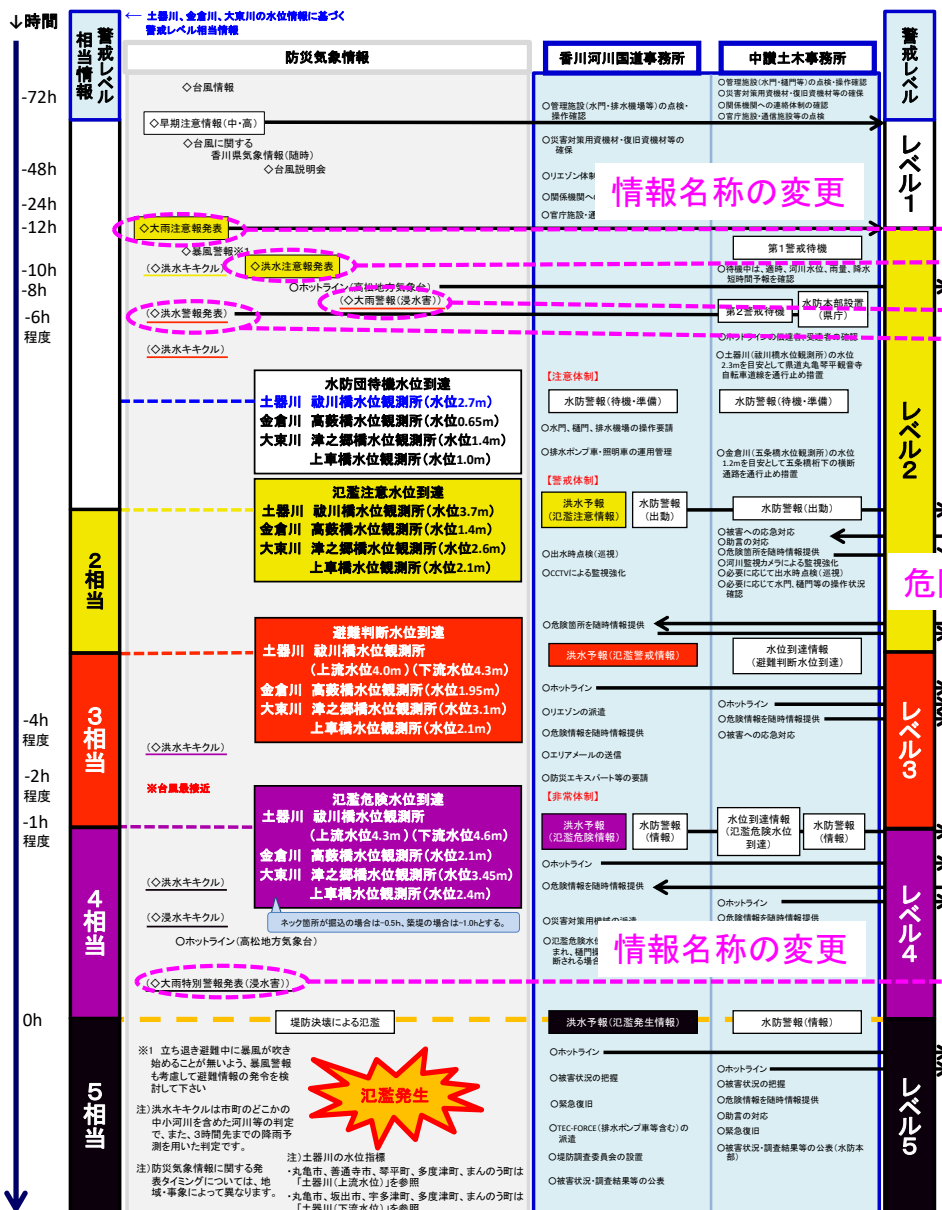
新しい防災気象情報の情報体系とその名称（令和8年出水期～）

	大雨 低地の浸水や大河川以外での氾濫	河川氾濫 1級河川などの大河川の氾濫	土砂災害 急傾斜地の崩壊や土石流	高潮 海面の上昇や波の打上げによる浸水	（警戒レベルごとの）住民がとるべき行動
警戒レベル 5 相当	レベル5 大雨特別警戒報	レベル5 氾濫特別警戒報	レベル5 土砂災害特別警戒報	レベル5 高潮特別警戒報	命の危険 直ちに安全確保！
<警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難！>					
警戒レベル 4 相当	レベル4 大雨危険警戒報	レベル4 氾濫危険警戒報	レベル4 土砂災害危険警戒報	レベル4 高潮危険警戒報	危険な場所から全員避難
警戒レベル 3 相当	レベル3 大雨警戒報	レベル3 氾濫警戒報	レベル3 土砂災害警戒報	レベル3 高潮警戒報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
警戒レベル 2	レベル2 大雨注意報	レベル2 氾濫注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認（避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）
警戒レベル 1	早期注意情報				災害への心構えを高める

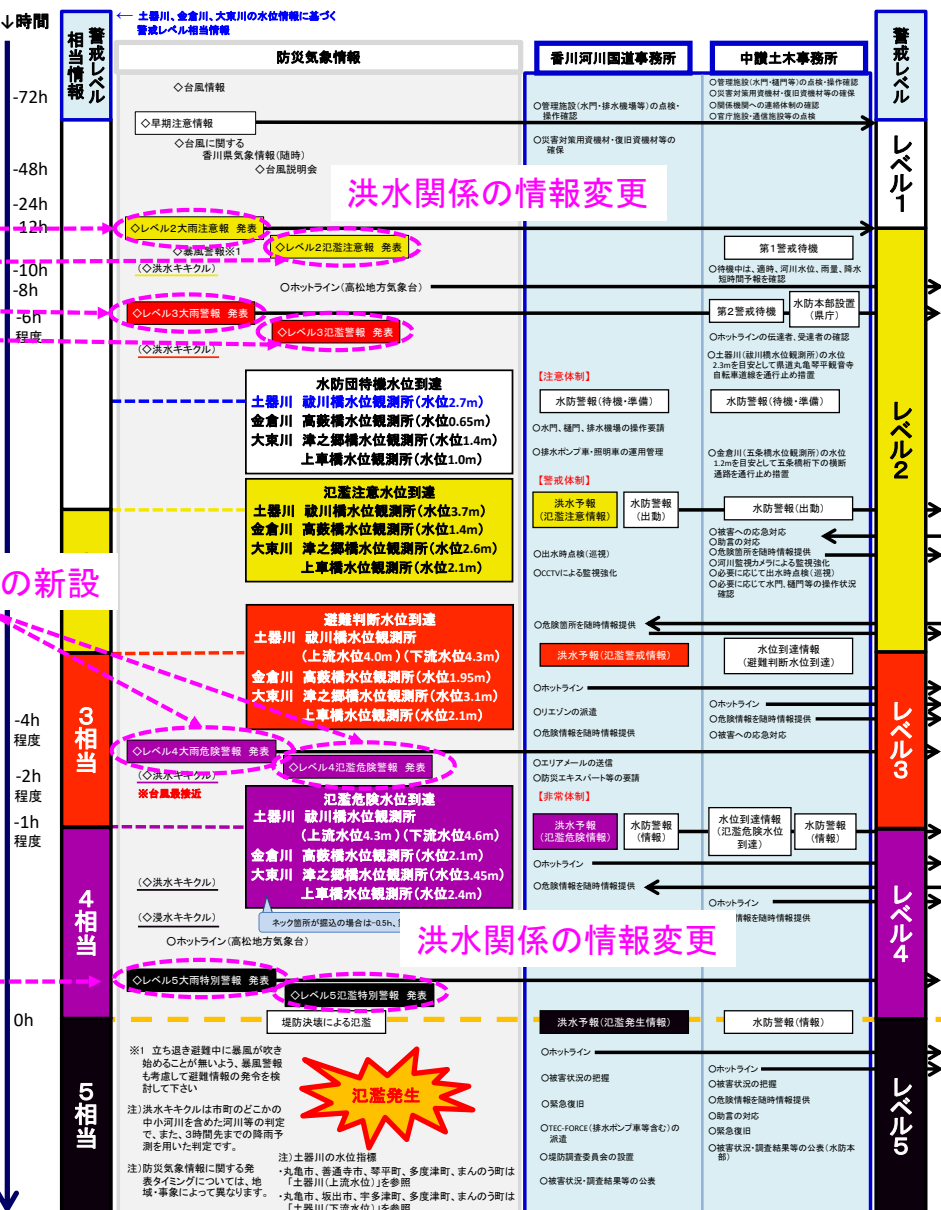
「新しい防災気象情報」反映による令和8年度版の更新内容

- 「新しい防災気象情報」をタイムラインの防災気象情報欄に反映し、多機関連携型タイムライン(洪水)【令和8年度版】に更新。
- 防災気象情報の変更箇所は以下のとおり。

既往の多機関連携型タイムラインの防災気象情報の内容



多機関連携型タイムラインの防災気象情報の更新内容

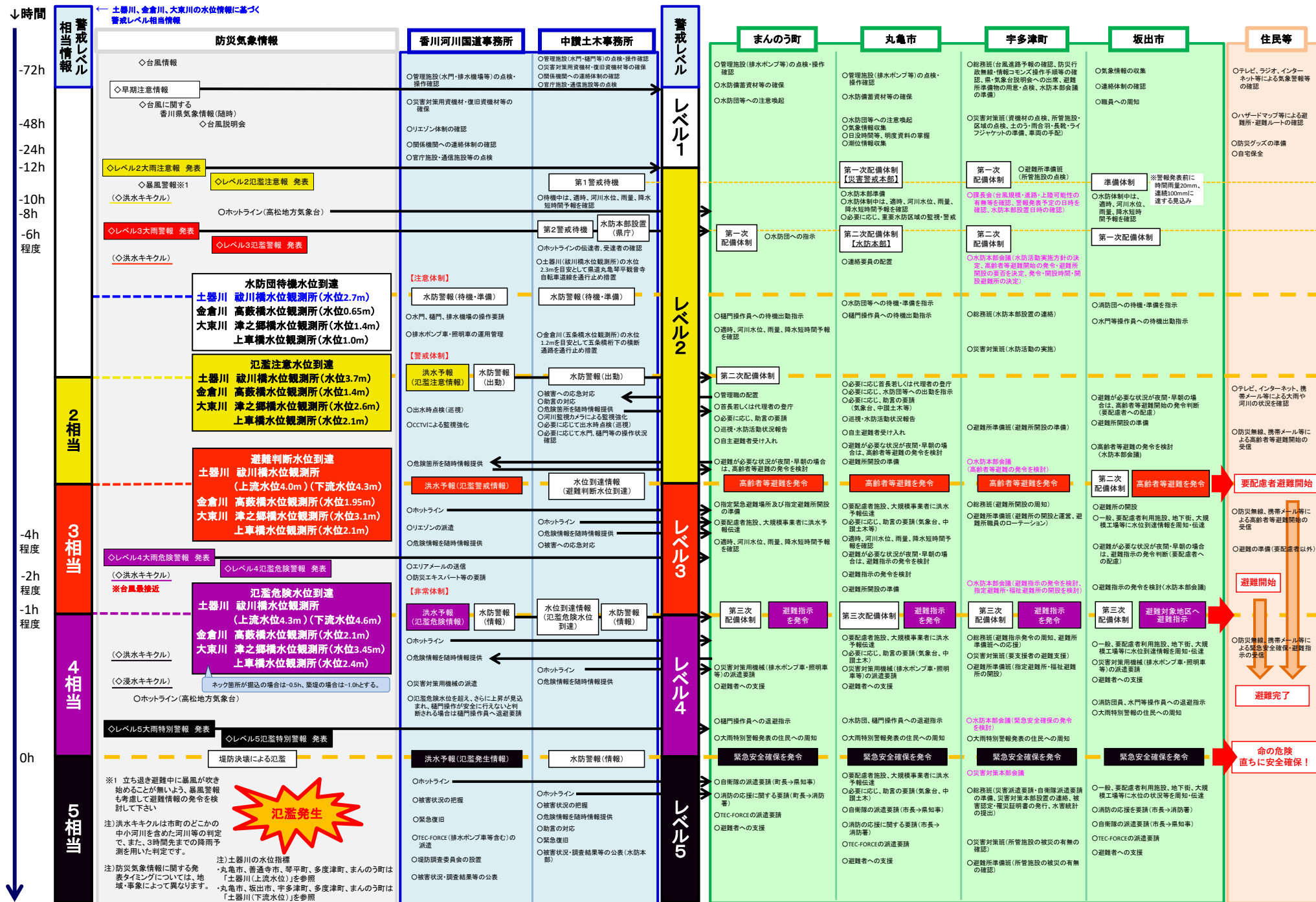


●洪水水キキル、浸水水キキル、土砂水キキルは、大雨特別警報・土砂災害警戒情報・大雨警報・注意情報および洪水警報・注意情報が発表された場合に、避難が必要な地域の絞り込みを利用して下さい。

※()は、市町単位で発表する気象情報であり、参考としてご利用ください。

●洪水水キキル、浸水水キキル、土砂水キキルは、5段階の警戒レベルにあわせて各種の防災気象情報が発表された場合に、避難が必要な地域の絞り込みを利用して下さい。

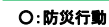
※()は、市町単位で発表する気象情報であり、参考としてご利用ください。

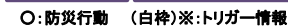


●洪水キキル、浸水キキル、土砂キキルは、5段階の警戒レベルにあわせて各種の防災気象情報が発表された場合に、避難が必要な地域の絞り込みに利用して下さい。

※()は、市町単位で発表する気象情報であり、参考としてご利用ください。

○:防災行動







- 令和7年度に大きな出水が発生しなかったため、実運用からの「新たに追加する事項(課題、目的)」はなし。
- 令和8年度以降も引き続き、「土器川流域タイムライン(洪水)」の運用に基づき、内容のブラッシュアップを図っていく。

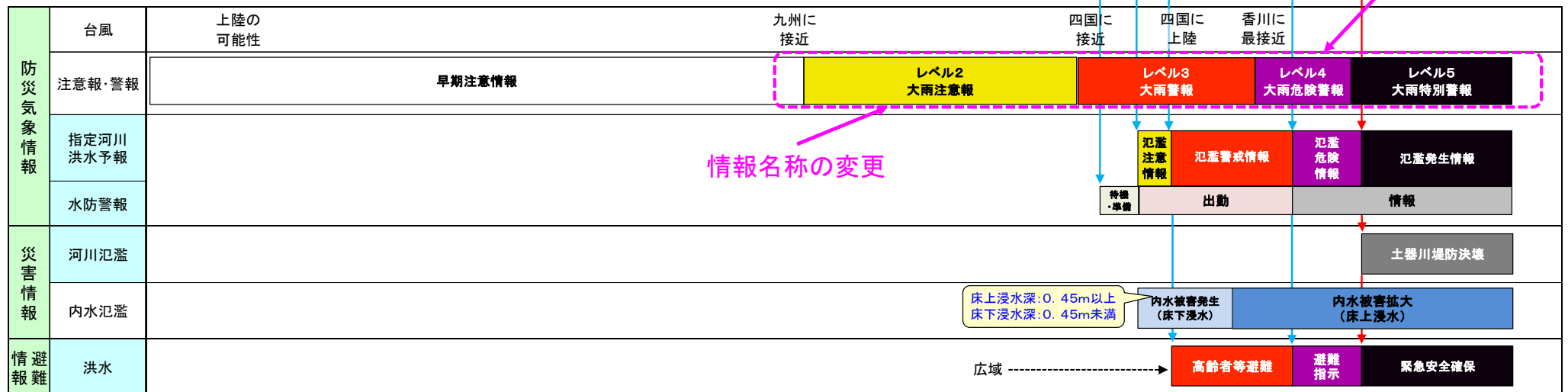
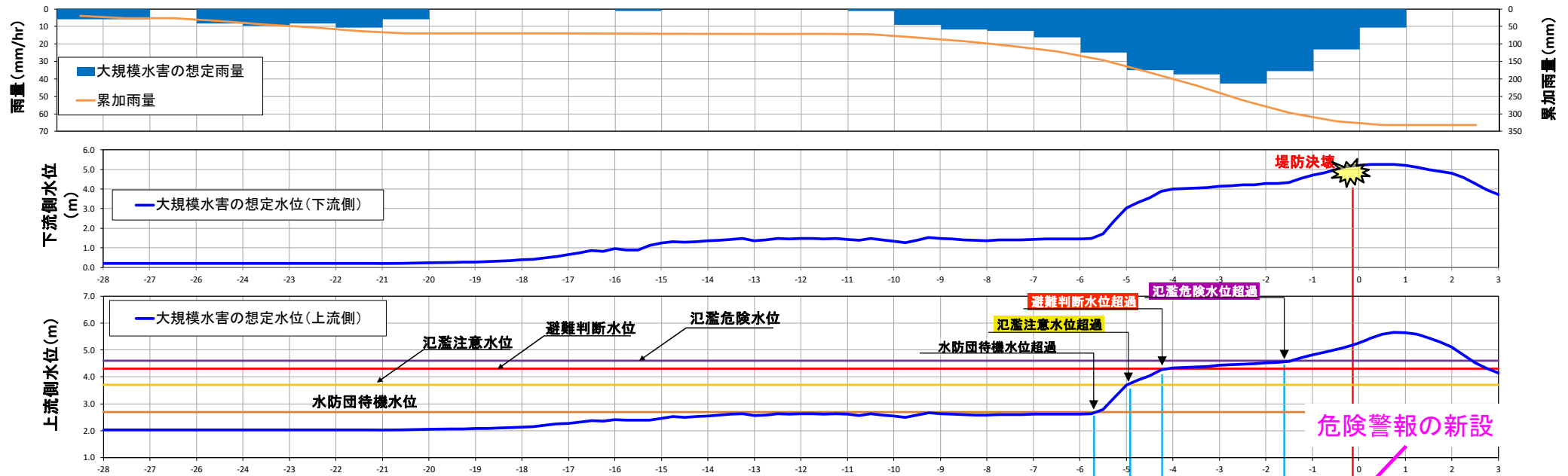
各機関の「課題(発災後の機能支障(困ること))」、「目的(事前に対応すべきこと)」一覧表

※被災シナリオに基づき、発災後に想定される機能支障(困ること)に関する「課題」に対して、機能支障に陥らないために事前に対応すべきこと(重要な防災行動)の「目的」について、各関係機関ごとに抽出整理し、多機関連携型タイムラインに反映。

関係機関	課題	目的
	発災後の機能支障 (困ること)	事前に対応すべきこと
自治体 (市町)	● 孤立者が出る ● 電気・ガス(民間事業者)のライフライン機能の低下 ● 上水道・下水道(公共事業者)のライフライン機能の低下 ● 交通が麻痺する ● 避難路が渋滞する ● 避難所が足りない ● 必要な物資が届かない ● ゴミの仮置き場がない ● 緊急輸送路の機能低下 ● 漂着ごみによる港湾施設の機能低下	● 一時避難場所の確保の検討 ● 住民の確実な避難行動を支援する(特に、災害時要支援者の支援) ● 蓄電池等代替機能の整備 ● 給水車・マンホールトイレ等代替機能の整備 ● 交通網の確保の検討 ● 避難路の確保の検討 ● 避難所の確保の検討 ● 物資の輸送ネットワークの確保の検討 ● 集積場の確保の検討 ● 緊急輸送路の啓開計画の策定 ● 地域防災計画における港湾施設の復旧優先順位の設定
警察	● 孤立者が出る ● 交通が麻痺する ● 避難路が渋滞する ● 犯罪が発生する ● 安否不明者の認知	● 住民の確実な避難行動を支援する(特に、災害時要支援者の支援) ● 交通網の確保の検討 ● 避難路の確保の検討 ● 広報等を伴い、情報を提供
消防本部 ・消防団	● 孤立者が出る ● ライフラインが途絶える	● 危険個所を確認 ● 住民の確実な避難行動を支援(特に、災害時要支援者の支援) ● 交通網の確保の検討
自衛隊	● 部隊が展開できる場所がない ● 最新の情報が不足(被害、道路、他機関の行動)	● 事前の偵察及び関係機関との情報の共有(使用可能な場所を把握) ● 連絡要員の早期派遣により、常に最新の情報を収集できる態勢を確立

関係機関	課題	目的
	発災後の機能支障 (困ること)	事前に対応すべきこと
四国電力 ・ 四国電力 送配電	● 被災した設備の復旧、停電の解消の遅延	● 気象情報の収集 ● 設備点検・復旧対応の体制の構築・応援準備
NTT	● 電話が通じない ● インターネット通信が途絶える ● 電柱が倒れる ● 光ファイバーが切れる ● NTTビルの停電、浸水 ● 通信ケーブル被災	● 設備点検体制を構築 ● 特設公衆電話の設置 ● 広域支援の依頼の準備 ● 協力会社支援要請 ● 自治体ヘリエゾン派遣し情報収集 ● 復旧用資機材の手配 ● 災害対策機器準備 ● 停電対策(移動電源車・発動発電機・燃料等)準備 ● 復旧要員の確保
四国ガス	● ガスが使えない ● ガス機器、メーター、屋外設備が浸水する ● ガス管、設備が破損する ● 橋梁が崩壊する(添架ガス管の損傷)	● 設備点検体制を構築 ● 供給停止計画の検討 ● ガス復旧対応の体制を構築
水道	● 水道が出ない ● 水道管・水管橋が破損する ● 河川水位が上がり、取水施設が停止する ● 水が濁り、浄水処理不良が発生する ● 浄水場等で停電・監視通信回線断が起きる	● 設備点検体制を構築 ● 気象・河川水等の情報収集 ● 取水水源・水量の変更 ● 電力・NTT等からの情報収集・復旧依頼 ● 給水車・応急給水所の準備 ● 水道復旧対応の準備
琴平電鉄	● 運行ができない ● 帰宅困難者が溢れる ● 線路が破損する	● 設備点検体制を構築 ● 計画運休の検討 ● 駅舎開放の検討
琴参バス	● 運行ができない ● 車両が水没する	● 計画運休の検討 ● 車両の高台への移動

- 河川の水位情報に基づく被災シナリオとして、河川の堤防決壊に至るまでの、降雨や水位の変化に応じた防災気象情報の発表状況、災害の発生状況、避難情報の発令状況を設定。
- 「新しい防災気象情報」を反映し、「注意報・警報」の記載内容を更新した。



- 災害対策基本法第36条第1項の規定により定めた国土交通省防災業務計画(令和3年10月)より、市町別の「避難情報に着目した水害対応タイムライン」を、「**複数の市区町村を対象とした流域タイムライン**」に見直し。
- 土器川においては、「土器川・金倉川・大東川 多機関連携型タイムライン」を基に、被災シナリオ、防災気象情報や水位情報を土器川に絞り、国・県・関係市町を対象とした「**土器川流域タイムライン**」を作成。
- この「**土器川流域タイムライン**」を令和5年度より運用を開始し、河川の増水・氾濫時の防災対応や訓練等に活用するとともに、実運用で確認された課題に対する防災行動等のブラッシュアップにより、「流域タイムライン」の繰り返し改善を図る。

「流域タイムラインの作成・活用」と 「WEB会議ツールによる危機感の共有」の推進

防災・減災プロジェクト第2弾(重点推進施策)

＜河川・気象の行動のきっかけとなる情報をまとめた流域タイムラインを作成・活用！＞

- ・ 河川・気象情報の提供やこれを受けた市区町村による避難情報の発令など基本的な行動を時系列で整理するタイムラインを、流域などの単位で作成。
- ・ 河川の増水・氾濫時の更なる円滑な防災対応や訓練等に活用することで振り返りによる改善を実施。(不断の改善により防災対応をブラッシュアップ)

＜台風接近時等のWEB会議ツールによる危機感の共有を実施！＞

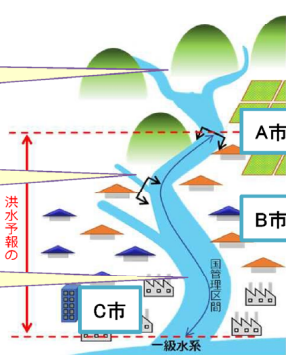
- ・ 市区町村による避難情報発令などの防災対応を支援するため、河川事務所、気象台のほか、都道府県の河川・砂防部局とも連携し、WEB会議ツールを活用することで防災情報や危機感の共有、流域自治体の対応状況等を関係者で一斉に共有

■ 流域タイムラインのイメージ

流域平均の雨量の実況や予測から数日前から警戒感を高める(気象台)

支川等の氾濫のおそれ、土砂災害の危険性について共有(気象台・都道府県河川・砂防部局)

河川水位の実況や予測から氾濫のおそれ共有(河川事務所・気象台)



■ 水害対応タイムラインと法定計画との関係

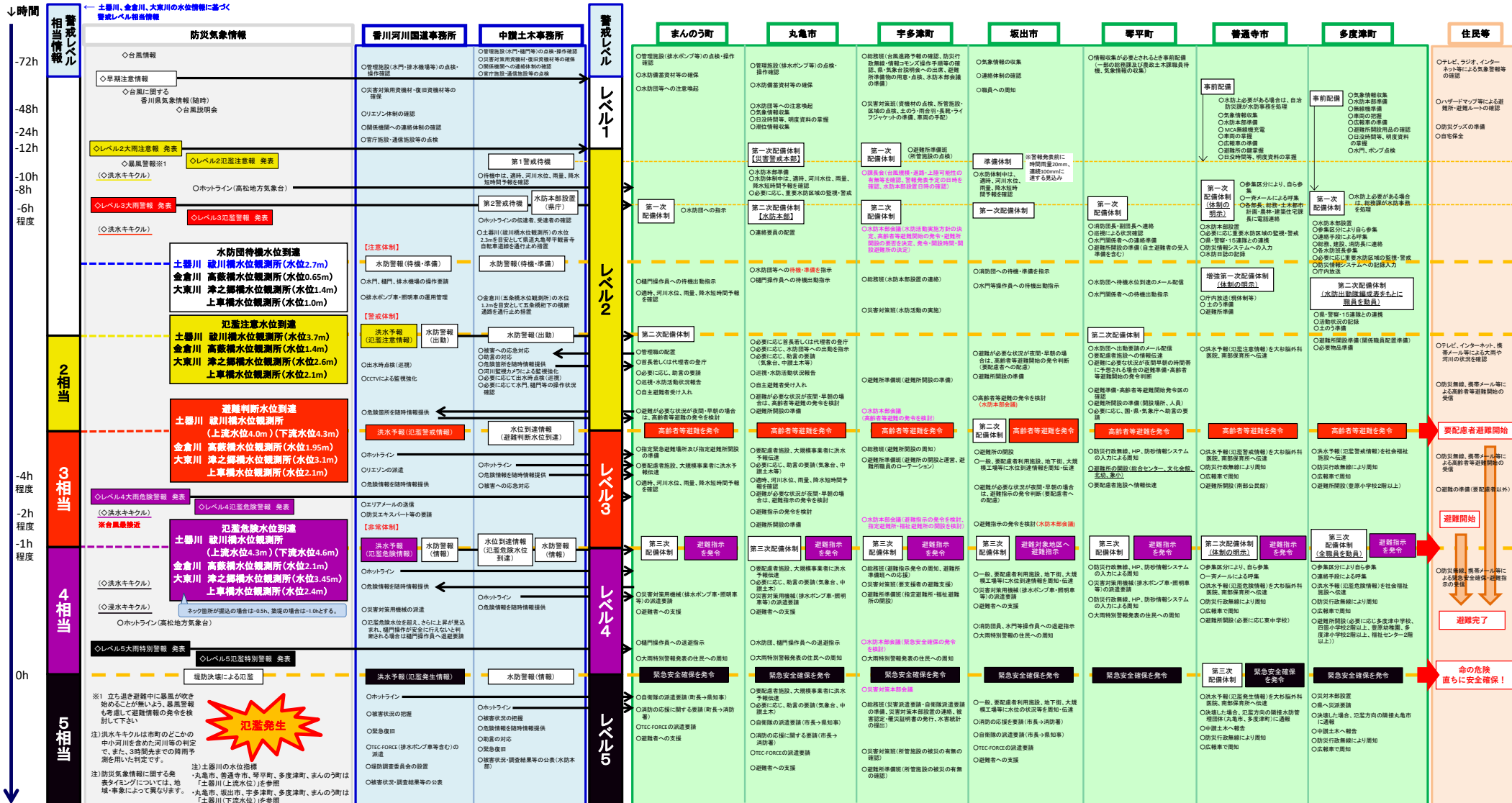
領域	法定計画等 (策定主体)	タイムライン
流域	国土交通省防災業務計画等 (地方整備局等、事務所等)	流域タイムライン
市区町村	地域防災計画 (市区町村)	市区町村タイムライン
地区	地区防災計画 (自治会、自主防災組織)	コミュニティタイムライン
個人、事業者等	避難確保計画(要配慮者利用施設) 個別避難計画(要配慮者)	マイ・タイムライン

◇土器川流域タイムラインの作成について

- ・ 土器川では、令和4年度に、防災に係わる組織(行政、ライフライン事業者、交通事業者などの民間企業等)の関係者による検討ワーキングを開催し、「**土器川・金倉川・大東川 多機関連携型タイムライン**」を作成している。
- ・ 一方、「流域タイムライン」の作成・活用にあたっては、【必須】関係者(行政機関)、【推奨】関係者(ライフライン事業者、交通事業者などの民間企業等)に分類し、先行して【必須】関係者(行政機関)による**流域タイムライン**を作成し、今後、運用しながらブラッシュアップしていく方針としている。
- ・ このため、「土器川流域タイムライン」の作成は、「**土器川・金倉川・大東川 多機関連携型タイムライン**」を基に、【必須】関係者(行政機関)による「**土器川流域タイムライン**」を作成した。

- 令和8年出水期から運用予定の「新しい防災気象情報」を反映し、「土器川流域タイムライン(洪水)」を【令和8年度版】に更新し、次年度より運用する。
- 令和8年度以降も引き続き、「土器川流域タイムライン(洪水)【令和8年度版】」の運用及びブラッシュアップを図っていく。

※「土器川流域タイムライン(洪水)」は、土器川を対象とした行政機関によるタイムラインであり、香川県(中讃土木事務所)の防災行動は、土器川水防計画書の洪水予報、水防警報の情報伝達に関する事項を記載している。



●洪水キキクル、浸水キキクル、土砂キキクルは、5段階の警戒レベルにあわせて各種防災気象情報が発表された場合に、避難が必要な地域の絞り込みに利用して下さい。

※ () は、市町単位で発表する気象情報であり、参考としてご利用ください。

○:防災行動